資料－１

第１回　北上川水系河川整備学識者懇談会上流部会　議事要旨

日　時：平成２０年２月２１日（月）　１３時３０分～１６時００分
場　所：ホテルルイズ　万葉の間

＜ 治 水 ＞

○事業効果の早期発現の観点から、工事の必要性の順位を決めて、順位の高いところを重点的に整備し、短期間に完成させるという戦略を考えていく必要がある。

○農地の冠水頻度を下げて営農の安定性にも貢献できるような治水対策を考えていく必要がある。

○治水対策に関しては、治水事業の効果を発現させるために要する時間的な問題、事業に必要となる予算的な問題、事業実施にあたっての地域住民との合意という問題、この時間・予算・合意という3つの観点に基づき判断していくことが基本的な考え方となる。

○水害が発生しやすい危険な箇所は家を建てさせないよう土地利用規制を行い、地域の方と一緒になってこれ以上被害が増えないような取り組みが必要である。

＜ 利水・環境 ＞

○貴重種だけを守るという考え方ではなく、生物の多様性を確保するということを前提にしていく必要がある。そのためには、保護、回避の他に、新たに復元という観点を取り入れて行く必要がある。

○元来あるべき生態系というのは一体何なのかというのは難しい問題である。この川にとって一番大事なのは何かというような指標となる種を選んで、その種の保全をまず最優先とし、次第に多様性を求めていくという考え方もある。

○ダムの下流で流量が非常に少ないところについて、流量を確保する方策を検討していただきたい。

○外来種による被害が拡散しないような対策を整備計画に盛り込む必要がある。

○河川の生態系をどのように維持・保存するのか考えるためには、現状でどこの部分の生態系の質が高いのか低いのかといった分析、評価が必要である。

○自然環境に対する配慮だけではなく、史跡等にも配慮するという言葉をキーワードとして盛り込んでおく必要がある。

○時代がどんどん変わっており、それに伴い考え方も変化してきている。環境の目標も時代の要請にあったものにしていく必要がある。

以　上